

③⑤奄美大島での豪雨災害を契機とした小中学生への 継続した防災教育の取組

受賞機関 鹿児島県 大島支庁 建設部 建設課・瀬戸内事務所 建設課

キーワード 防災教育、出前講座の工夫、土砂災害ジュニアマスター

全建賞審査委員会の評価ポイント

集中豪雨による甚大な被害を契機に、平成23年から継続的に実施している小中学生を対象とした防災教育の取組み。これまでに約70校延べ1,600人以上の小中学生に実施しており、その話題を家庭内で広げてもらい地域の防災力向上に寄与している点、講座を受講した人に「土砂災害ジュニアマスター」という受講証明書を発行するなど、興味を引き飽きさせない取組みを行った点が評価された。

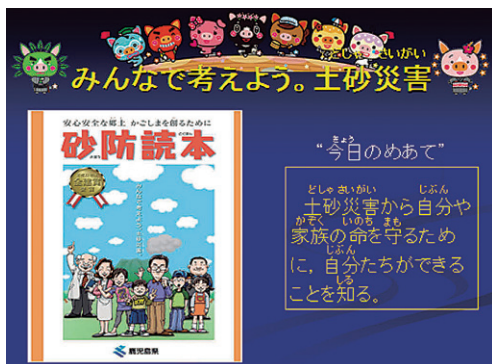
1. はじめに

鹿児島県大島支庁では、土砂災害による犠牲者「ゼロ」を目指して、平成22年の豪雨災害を契機に、過去の教訓や土砂災害に関する知識等を後世・次世代に伝承し、災害時に迅速的確な避難行動がとれるよう防災教育を推進するため、小中学校向けに鹿児島県で作成した「砂防読本」（平成22年全建賞受賞）を活用した出前講座を実施している。

2. 出前講座の内容

出前講座は、平成23年度より、これまで69校延べ1,600人以上の小中学生に対して実施してきた。

主な講座内容は、「土砂災害から自分や家族の命を守るために、自分たちができること。」を講座のめあてとして、土砂災害とはどのようなものなのか、平成22年、23年の奄美豪雨のこと、学校周辺の危険箇所、避難場所、土砂災害に遭わないために自分たちができることについて説明している。また、土砂災害を具体的に理解してもらうために、映像を見せたり、模型を使った土石流の実験を行ったりし、まとめとして、自分や家族の命を守るためには、「日頃の備え」と「早めの避難」が大切であることを伝えている。



講座のめあて

3. 出前講座を実施する上での工夫

出前講座の中では、地域の災害のリスクや命を守る行動について学習を行うとともに、土石流などの模型実験や避難の必要性を映像を活用し、子ども達の興味をひきつけ飽きさせないようにしている。講座修了時には、学習した事について簡単なクイズを実施し、受講証明としての「土砂災害ジュニアマスター」を発行することにより、土砂災害についての認識、理解を深め、土砂災害の話題が家族内で広がるなど地域の防災力向上のきっかけになるように工夫している。



土石流模型実験状況

また、出前講座の実施にあたっては、技術系職員が主に携わり、出前講座の状況は、地元のメディアにも数多く取り上げられている。また、担当以外の職員にも協力してもらった上で、組織全体として取組み、講座修了後には、説明の良かった点や悪かった点を共有し、より良い防災教育の実施ができるよう改善するとともに、組織全体の防災意識・知識の向上にも結びついている。

4. おわりに

鹿児島県では土砂災害に備え、砂防施設の整備を行っているが、100%安全になることはない。そこで、土砂災害の危険を感じた時に、「早めの避難」を心がけてもらうためにも、子供のころからの土砂災害に関する啓発活動は重要であると考えている。

今後もより多くの小中学校へ出前講座を実施し、土砂災害から「自分の命は自分で守る」という強い気持ちを持ってもらうことと、「日頃の備え」の大切さを伝えていきたい。